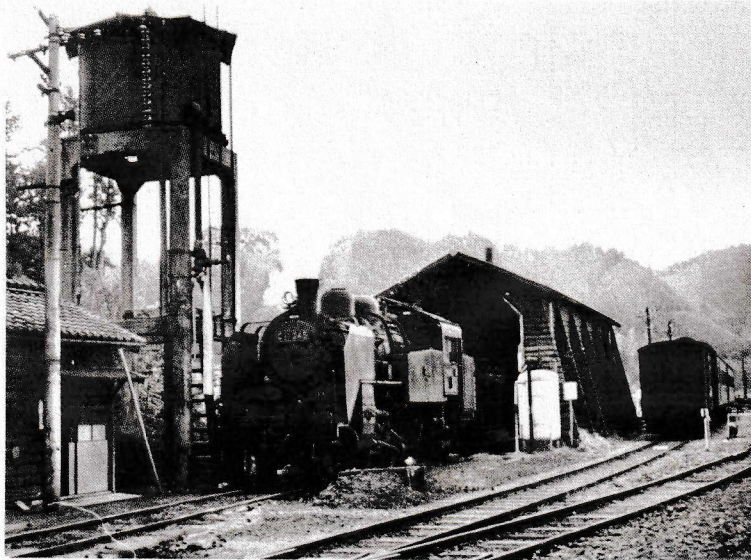


「旧国鉄伊勢奥津駅給水塔」

国の登録有形文化財登録に



(横谷佐一氏撮影)



現存する蒸気機関車の鉄製タンクの給水塔は、登録有形文化財では全国で鳥取県の若桜(わかさ)鉄道若桜駅と伊勢奥津駅の2基。

伊勢奥津駅隣りにある給水塔が、令和6年7月19日に開催された国の文化審議会の文化財分科会で審議され、新たに国の登録文化財とするべき建造物として、文部科学大臣に答申されました。

JR名松線は、昭和4(1929)年に松阪駅から権現前駅までの約7kmの開業に始まり、昭和10(1935)年12月5日に松阪駅から伊勢奥津駅までの総延長43.5km全線が開通、給水塔はその際、機関車への給水のために建てられました。

昭和40(1965)年に蒸気機関車からディーゼル機関車に移行、昭和62(1987)年の国鉄分割民営化によるJR東海へ移管後も、給水塔は姿を変えることなく、津市の所有となった今も蒸気機関車が運行していた当時の景観を残しています。

名松線は、過去災害などにより何度も廃線の危機がありました。平成21年の台風18号の被害により廃線の危機を迎えましたが、延べ11万人以上署名を集め、平成28年3月26日に地域の皆さんの名松線を残したいという強い思いと、JR東海・三重県・津市が一体となり「奇跡の復活」ともいわれる名松線全線復旧を6年半ぶりに果たしました。

給水塔はこのような時勢の変化の中、失われることなく文化庁からも「我が国の鉄道史上、価値が高く重要な工作物であり、国土の歴史的景観に寄与するものである。」との評価を得ました。

周辺には、給水塔の貯水槽や、雲出川には取水施設も現存し、伊勢参宮が盛んであった頃の宿場の街並みの面影が残っています。どうぞごゆっくりとお楽しみください。

【お問い合わせ・ガイドのお申込み(要予約)】

伊勢本街道を活かした地域づくり協議会

〒515-3531 三重県津市美杉町奥津1288-1

電話 059-212-0168 (津市伊勢奥津駅前観光案内交流施設ひだまり)